

# 第1回那珂市那珂インターチェンジ周辺を核とした活力あふれる まちづくり検討委員会 会議録

1 日時 令和2年11月19日(木) 午前10時00分から午前11時50分

2 場所 那珂市役所本庁舎2階 全員協議会室

## 3 出席者

### (1) 委員

国立大学法人茨城大学 人文社会科学部准教授 川島 佑介  
株式会社筑波銀行 常務執行役員営業副本部長 渡辺 一洋  
株式会社JTB 営業担当課長 山原 一晃  
JA常陸 エリアマネージャー 鈴木 頼尚  
木内酒造合資会社 企画室 國井 元耶  
那珂市商工会 会長 浅川 清司  
那珂市観光協会 副会長 大野 進  
那珂市まちづくり協議会 会長 平野 道代  
芳野地区まちづくり委員会 委員長 檜山 公明  
女性ネットワークなか 代表 海野 順子  
那珂市PTA連絡協議会 会長 大曾根 香澄  
那珂市農業委員会 会長代理 竹林 則男(根本会長の代理出席)  
那珂市認定農業者連絡会 会長 石崎 甲一  
フェルミエ那珂 代表 綿引 桂太  
一般社団法人カミスガプロジェクト 代表 小林 大輔  
那珂市地域おこし協力隊 アグリビジネス活性化プロジェクト 入江 紫織

### (2) 市代表者

副市長 谷口 克文

### (3) 幹事

総務部長 加藤 裕一  
企画部長 大森 信之  
市民生活部長 桧山 達男  
産業部長 高橋 秀貴  
建設部長 中庭 康史

### (4) 事務局

政策企画課：課長 益子 学、課長補佐(総括) 岡本 哲也  
課長補佐(政策企画グループ長) 橋本 芳彦、主幹 住谷 峻司

## 4 会議内容

### ○事務局(益子課長)

本日はお忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまから第1回那珂市那珂インターチェンジ周辺を核とした活力あふれるまちづくり検討委員会を開会いたします。

それでは、会議に先立ちまして、委員の委嘱についてお知らせします。

本来であれば、市長より委嘱状をお渡しするところですが、時間の都合上、机の上に置かせていただいておりますので、ご確認の方よろしく願いいたします。

なお、委員の任期につきましては、那珂市那珂インターチェンジ周辺を核とした活力あふれるまちづくり検討委員会設置要綱第4条の規定により、「那珂インターチェンジ周辺を活用したまちづ

くりに関する方針が決定する日まで」としております。

どうぞよろしく願いいたします。

それでは、まず始めに、市を代表しまして、谷口副市長よりご挨拶申し上げます。

○谷口副市長

おはようございます。ただいま紹介のありました那珂市副市長の谷口でございます。

市長は公務で出席できませんので、代わりにご挨拶申し上げます。本日はお忙しい中、出席いただきまして誠にありがとうございます。また、本委員会の委員就任につきましては快く就任をお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。さて、皆様のご承知のとおり、那珂インターチェンジ周辺のこの地域につきましては国道 118 号線の 4 車線化や県の植物園のリニューアル化などによりまして発展の可能性が大いにある地域だと考えております。当市としましては、今年 9 月の議会におきまして、道の駅の整備についてということで方針を議会に報告したところですが、議会からは、道の駅ありきではなくてこの地域について広く意見を聴いてはどうかというご意見がございましたので、この検討委員会を立ち上げさせていただいたところでございます。これまで那珂インターチェンジ周辺の開発につきましては、数回の開発の検討の動きがございましたが、残念ながら実現には至らなかったという状況でございます。今回は先崎市長のリーダーシップに基づきまして市の職員は一丸となってこの周辺地域を開発してはということで意気込んでおります。

そのため、皆様から忌憚のないご意見を期待しておりますので、本日から結論が出るまでどうぞよろしく願いいたします。

○事務局（益子課長）

ありがとうございました。

続きまして、次第の 3 の委員・事務局紹介でございますが、大変恐縮でございますが、お手元の委員名簿の順で、自己紹介をお願いいたします。

それでは、川島委員より、お願いいたします。

○川島委員

茨城大学の川島 佑介と申します。どうぞよろしく願い申し上げます。

○渡辺委員

筑波銀行の渡辺でございます。どうぞよろしく願い申し上げます。

○山原委員

JTB の山原です。どうぞよろしく願いいたします。

○鈴木委員

JA 常陸の鈴木です。どうぞよろしく願いいたします。

○國井委員

木内酒造の國井と申します。よろしく願いいたします。

○浅川委員

那珂市商工会会長の浅川です。よろしく願いいたします。

○大野委員

那珂市観光協会副会長の大野です。よろしく願いいたします。

○平野委員

那珂市まちづくり協議会の会長をしております、平野と申します。よろしく願いいたします。

○檜山委員

芳野地区まちづくり委員会の委員長の檜山です。よろしくお願いいたします。

○海野委員

女性ネットワークなかの代表をしております、海野です。よろしくお願いいたします。

○大曾根委員

那珂市PTA連絡協議会の会長をしております、大曾根と申します。よろしくお願いいたします。

○竹林委員（根本委員の代理）

那珂市農業委員会会長の代理で出席しました、竹林です。よろしくお願いいたします。

○石崎委員

那珂市認定農業者連絡会の石崎と申します。よろしくお願いいたします。

○綿引委員

フェルミエ那珂の代表しております綿引と申します。よろしくお願いいたします。

○小林委員

一般社団法人カミスガプロジェクトの代表をやらせていただいております、小林と申します。よろしくお願いいたします。

○入江委員

那珂市地域おこし協力隊で農業を担当しております、入江と申します。よろしくお願いいたします。

○事務局（益子課長）

ありがとうございました。

つづきまして、幹事と事務局を紹介いたします。

改めまして、谷口副市長でございます。

○谷口副市長

谷口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（益子課長）

次に幹事でございます。大森企画部長です。

○大森企画部長

大森と申します。よろしくお願いいたします。

○事務局（益子課長）

加藤総務部長です。

○加藤総務部長

加藤です。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（益子課長）

松山市民生活部長です。

○松山市民生活部長

松山です。よろしくお願いいたします。

○事務局（益子課長）  
高橋産業部長です。

○高橋産業部長  
高橋と申します。よろしくお願ひいたします。

○事務局（益子課長）  
中庭建設部長です。

○中庭建設部長  
中庭です。よろしくお願ひします。

○事務局（益子課長）  
次に事務局でございます。司会を務めます、政策企画課の益子と申します。どうぞよろしくお願ひします。

○事務局（岡本総括）  
政策企画課の岡本です。よろしくお願ひします。

○事務局（橋本課長補佐（政策企画グループ長））  
同じく政策企画課の橋本と申します。よろしくお願ひいたします。

○事務局（住谷主幹）  
同じく政策企画課の住谷と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局（益子課長）  
続きまして、4の委員長及び副委員長の選任でございます。  
委員長・副委員長につきましては、設置要綱第5条第1項の規定により、委員の互選により選出することとなっております。  
もしよろしければ、事務局の方から案を出させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〈異議なしの声あり〉

○事務局（益子課長）  
それでは、委員長には、茨城大学の川島様、副委員長には、那珂市商工会の浅川様にお願ひしたいと思いますが、いかがでしょうか。

〈委員一同から拍手あり〉

○事務局（益子課長）  
それでは、改めまして、委員長には、茨城大学の川島様、副委員長には、那珂市商工会の浅川様にお願ひしたいと存じますので、よろしくお願ひいたします。  
それでは、代表して、川島委員長より、ご挨拶をお願ひしたいと存じます。

○川島委員長  
改めましてよろしくお願ひいたします。  
このたび委員長を拝命いたしました、川島 佑介です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。  
先ほどの副市長のお話しにありましたように、那珂インターチェンジ周辺というのは大きなポテンシャルを有していると思われまふ。道の駅など魅力的な案が提案されております。しかし、本

件は、市や市民の未来に大きな影響を与えるものです。したがって視野を広く持ちつつ、慎重な議論が必要になってくることは言うまでもありません。委員の皆様におかれましては、それぞれの立場からの忌憚のないご提案と活発な議論をお願いいたたく存じ上げます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局（益子課長）

ありがとうございました。

それでは、ここからの議事進行は、設置要綱第5条第2項の規定によりまして、委員長が議長となることから、川島委員長をお願いいたします。

○川島委員長

それでは、ここからは、私が、議事進行を進めさせていただきます。

早速ではございますが、5の協議内容に入っております。

協議内容の（1）について、事務局よりご説明をお願い申し上げます。

○事務局（岡本総括）

（協議内容の（1）那珂 I C 周辺を核とした活力あふれるまちづくり検討方法について、資料1に基づき説明）

○川島委員長

ありがとうございました。

続いて、協議内容の（2）、（3）につきましては、それぞれ関連がありますので、一括で事務局より説明をお願いします。

○事務局（橋本課長補佐（政策企画グループ長））

（協議内容の（2）那珂 I C 周辺開発のこれまでの経緯について及び（3）那珂 I C 周辺地域の現状について、資料2、3に基づき説明）

○川島委員長

ありがとうございました。

続いて、協議内容の（4）について、事務局より説明をお願いします。

○事務局（住谷主幹）

（協議内容の（4）那珂 I C 周辺の開発手法について、資料4に基づき説明）

○川島委員長

ありがとうございました。

続いて、協議内容の（5）について、事務局より説明をお願いします。

○事務局（住谷主幹）

（協議内容の（5）アンケート実施概要について、資料5に基づき説明）

○川島委員長

ありがとうございました。

それでは、ここからは協議に入っております。ただ今の事務局からの説明を踏まえ、ご意見等がございましたら、自由にご発言をお願いいたします。

なお、（1）から（4）の内容を踏まえつつ、今後、第2回・第3回の委員会で「まちづくりの方向性」などを検討していくこととなりますが、特に、（5）アンケートの設問につきましては、本日の委員会において、ご意見等いただいたうえで、12月に実施する予定ですので、こちらについてもご意見等があれば、お願いいたします。

○川島委員長

土地収用法の要件である公共の利益になるかどうかというのは誰が判定するのでしょうか。

○事務局（岡本総括）

土地収用法にこういった施設が該当になるという規定がありますが、土地収用法の事業認定については、茨城県から認定を受けるものになります。

○川島委員長

那珂インターチェンジ周辺地域が実際にどういったところなのか、生活者の観点からお話を伺いたいのですが、平野委員からご説明をいただいてもよろしいでしょうか。

○平野委員

インターチェンジ周辺地域について、高速道路を挟んで東側の地域は商業施設が多く立地し、人口が多い地域になります。当地域については、市役所をはじめ公共施設も多く立地しており、JRの駅も身近な距離に3つの駅が点在しております。交通の利便性がとても良い地域だと思います。なんとといってもインターチェンジが那珂市の中央部にあるということで様々な方面に行くのにとっても便利だと思います。一方で、高速道路を挟んで西側の地域は農村地域であると考えています。この地域で多くの市の特産物が生産されております。また、大子町方面などの観光地へ足を伸ばせるルートだと思います。西側の地域は農業を営んでいる方が大多数であると認識しています。ただ、その中で合併をしました瓜連地区については、整備が進んでおります国道118号の沿線上に小規模な商業施設が若干立地している印象です。いずれにせよ、インターチェンジ周辺を中心に考えると、様々な方面に向かうにあたって、とても便利なところだと考えております。

○川島委員長

かなり高いポテンシャルを有する地域だということが分かる一方で、やはり農地としても重要な土地であることも間違いのないと思います。とりわけ茨城県は、県をあげて農産物の生産が盛んな地域でもあります。つきましては、農業の観点から、那珂インターチェンジ周辺地域が農地としてどういった重要性をもつ地域なのかご説明をいただきたいと思います。竹林委員、石崎委員の方から何かご説明をいただけますでしょうか。

○竹林委員

現状として、菅谷地区については農地の間に宅地がかなり入り込んでいるので、事務局から説明があった状況からはかけ離れていると感じます。

インターチェンジ周辺地域の農家は高齢化がかなり進んでいる状況だと感じています。

また、後継者不足に伴い耕作放棄地もかなり増えています。

そのような中、認定農業者に耕作放棄地等を農地として活用していただいているというのが現状です。

○石崎委員

那珂市には特産品の那珂かぼちゃがあるので、道の駅構想においてはこれらの特産物を有効に活用してほしいと思います。道の駅構想により、地元の農家が意欲的に出荷できるような環境を整えてほしいと思います。

○川島委員長

道の駅について少しお話しをさせていただきますと、道の駅は意味付けや性格が大分変わってきている施設だと思います。昔はドライバーの休憩施設としての意味合いが非常に強かったと思いますが、そこから地場産業の紹介のための施設といった性格を帯びてきている印象です。

近年ではグランテラス筑西などの新しい道の駅が誕生しているところですが、観光の拠点という意味合いも持っている施設だと思います。那珂市の豊かな農産物を紹介する機会になるのかなと個人的には思います。

○浅川副委員長

那珂インターチェンジから3kmの距離に県植物園等の施設もあるので、広域的に考えた場合にインターチェンジ周辺地域にこだわってはいけなから思えます。

インターチェンジを降りてすぐに物産センターや道の駅に立ち寄るとは思えません。

まずは、目的地に向かうのではないのでしょうか。わざわざインターチェンジ周辺で遊ぶとは思えません。

インターチェンジ周辺地域にこだわらず、もっと広域的に考えてほしいと思います。

リニューアルされる県植物園の付近に複合型拠点施設を設置してほしいです。そこにウォーキングルートやサイクリングロードを整備してほしいと思います。

実際、市内に住んでいる方は、野菜等を買う際には地元のスーパー等を利用すると思います。

市外の方を那珂市に呼ぶのであれば、魅力的な複合施設を県植物園の周辺に整備してほしいと思います。インターチェンジ周辺ではただの通過点となり、誰も寄らないと思います。

○川島委員長

茨城県の観光という観点から、JTBの山原委員にご指南いただけたらと思います。

○山原委員

観光の視点からお話させて頂く前に、ここまでのお話しでいくつか気になったことがございましたので、質問させて頂いてもよろしいでしょうか。

まず、土地収用法の要件にある公共性の利益とは、どのようなものでしょうか。

また、那珂市が考える道の駅の構想については、国土交通省が掲げる8つの取組分野のどの取組を重視する想定なのでしょうか。

最後にアンケート調査について、どのような仮説を立ててアンケート調査を実施し、仮説の検証をする予定なのでしょうか。

○事務局（岡本総括）

土地収用法の要件である公共性の利益の考え方についてですが、これは、売買等による収支を目的にしたものではないということです。公共性の利益というところで認められているものについては、例えば美術館や図書館であったり、また道の駅も該当しますが、施設を利用する方達の利益という意味合いのものになります。地域の方が利用できる施設や地元の農産物売るなどの利益のために建設する建築物等が該当するものになります。

○山原委員

要するに、民間主体の収益事業には不適ということですね。

○事務局（岡本総括）

そのとおりです。

○大森企画部長

先程委員からいただいた、この地域の重点施策は何か、市がどのような方針で開発・運営していくのかというご質問についてですが、市としては市の総合計画のほかに地区別の計画を定めているわけではありませんので、市として、この地域の重点施策は何かという設定は特にしていません。

しかし、市の総合計画の中に位置付けております、土地利用構想では那珂インターチェンジ周辺を開発していくことを明記しております。また、副委員長からご意見いただきました、インターチェンジ周辺地域とはどこまでの範囲で考えるのかということについてですが、これについて特に市の方から何km圏内だとか設定してしまうと委員の皆様が自由に議論していただくにあたって支障をきたすと考えられることから、特にこの場では何km圏内で検討してほしいということはお願ひするつもりはございません。

委員の皆様が発想の中で、ここまではインターチェンジ周辺地域なのではないかということをお考えいただいて、その中で自由にご提案をいただけたらと思います。

#### ○小林委員

道の駅について、通過点になる道の駅と目的になる道の駅の大きく2つがあると思います。すべり台やジャングルジム等の子供を遊ばせられる施設が設置されている道の駅は目的地となりやすいです。一方、直売所やレストランが入っているだけの道の駅は通過点になりやすいと思います。これから道の駅を整備するのであれば、目的地になる道の駅を整備しなければ意味がないと思います。

周辺に比較対象となる道の駅があったとしても、どこか飛びぬけた要素を一つ設ければ、その分野において日本一の道の駅になることができます。

そのため、例えば大自然を満喫できるグランピングやキャンプ場等の自然を活用した施設を充実させるなどの考え方はあると思います。

イベントを運営している側の経験からいえば、子供を呼べば大人も来ます。親、祖父母、三世代を集めることができます。大人も子供も遊べるコンテンツを設ければ多くの人を集めることができると考えています。

#### ○川島委員長

もし仮に道の駅を整備することになったとしても、機能については精査が必要になると思います。

#### ○渡辺委員

先程から道の駅中心でのお話しになっておりますが、私自身、地方創生関係で自治体とお仕事をしてきた中で、道の駅グランテラス筑西について立ち上げの段階から関わらせていただきました。また、このほか、常総市では、農業振興をベースとしたまちづくりの構想「アグリサイエンスバレー構想」に基づき、周辺地域の開発及び道の駅の整備を進めています。

グランテラス筑西の場合、前面道路（国道50号）の交通量から検討を開始しており、「着地型」というより「通過点型」で、さらにそこに合わせ技で農業もということで民間の事業者が道の駅の後背地に大規模ないちごのハウスを建設して、道の駅と連携しながら農商工連携、当行もお手伝いをする形で他の業者を入れながら製品をつくるといった、農業振興をテーマに進めています。一方で、群馬県のかわばの道の駅のような「着地型」のものを整備する場合も考えられます。

また、この間、茨城県にお話しを伺ったところ、まだ県植物園と県民の森の開発については、まだマスタープランまでは至っていないという話で今後展開していくということになると、おそらく那珂市と県で計画を作成していくことになると思います。そういった流れの中で、県民の森の開発があれば、その周辺地で、インターチェンジの真ん中を通っている道路を整備して着地点を持っていくという方法もあるでしょうし、それに関連した施設をいくつか整備していくという手もあると思います。

まずは、那珂市の住民がそこに何ができて、自分たちが関わっていきながら、たくさん人がきて、お金が落ちて、雇用が生まれるという理想的なプランができあがるまで、この委員会ないしはアンケートを通じて意見をとってから、道の駅なのか、行政の示すマスタープランによっては、実際に事業に取り組んでくれる業者はいくらでもいると思います。

まずは、住民の皆様の意見を大事にしなければいけないと思います。子育て世代がいたり、高齢者世代がいたり、いろいろなかたがいると思うので、道の駅ができたけれど、車がうるさくて危ないということになってしまっても本末転倒になりますので、その辺をふまえて、道の駅ありきではなくて、まずは基本的に皆様がどんなことをしたいのかといったところが入って、当然、土地収用法でやったら道の駅を整備せざるをえないと思います。

土地収用法を活用し公共施設を整備した後に農振農用地の除外といったことも並行して進めて民間事業者が周辺に立地できるようなども併せて検討してはどうかと思います。

#### ○大曾根委員

先日開催されたPTAの役員会の際に、本検討委員会について役員にお話しをしたところ、皆様からは「なぜ、このタイミングで道の駅とかインターチェンジ周辺の開発といった話が出てきているのか」ということを疑問に思う方が多いと感じました。

事務局から説明があった経緯を知らない市民の方が多く印象を持っています。

県民の森や県植物園がリニューアルされることも知らない市民が多いと思います。



那珂インターチェンジ周辺地域のまちづくりの検討状況を市民に広く認識していただけるように、情報提供をしていただきたいということと、他にあった意見としては、開発にあたって相当な費用が掛かるはずだが、今現在コロナ禍でお金がない状況下でなぜ今開発を進めるのか、ほかにお金をかけるべき事業があるのではないかという意見もありました。

それでも、市内に人がたくさん集まる施設ができることはよいことだと思うという意見もありました。いずれにせよ、広く意見を聴くということは大切にしてほしいと思います。

#### ○大野委員

全国の道の駅の8割の経営状況は赤字だと思っています。

常陸太田市や常陸大宮市といった近隣市町村に既に道の駅がある中で、那珂市に新たに道の駅を整備するのは問題だと思います。

副委員長が仰ったように、グリーンツーリズム等を進めてもよいと思います。

ただし、那珂インターチェンジ周辺で何かやろうと思ったら皆が楽しめる、一見ばかばかしいと思うような施設やイベントを実施するとか、そういう建物があってもよいのではないのでしょうか。市民の人にバケツ一杯の土を持ってきてもらって、山を創ってそのうえに大きなかぼちゃのオブジェをおいて、高速道路を走行する自動車からも視認できるようにするとかもありだと思います。かぼちゃの城をつくって、まわりに芝を張るとか。芝生の中でサッカーができたりとか。

また、ちょっと離れたところには若者が商売できるような店舗を併設したりとか、基本的には賑わいの創出だと思います。

少し歩けば、木内酒造でビール造りの体験ができたり、峯島農場で牧場体験ができたり、そば打ち道場もできるだろうし、カミスガプロジェクトもそこでやってもらう。そして、ひまわりフェスティバルもそこでやってもらう。ある程度やることを集約していかないといけないと思います。那珂インターチェンジ周辺に集約するようなことをしないとインパクトがないと思います。

京都、金沢等の一部の地域を除き、国内で歴史的な魅力のあるまちはありません。そのため自分たちでまちをつくっていかねばならないと思います。

例えば、かぼちゃの小山を創って、その中に歴史民俗資料館のような機能を持っていかないと普段から人が集まるような環境をつくるということが一番大事。子供が来れば大人も来ます。その辺をうまくやっていければ毎日が賑わうと思います。それが一番だと思います。

芝生があれば、土日に子供がボールさえもってくればなんでもできます。ジャングルジムばかりではないと思います。併設する施設には料理教室をつくってもよいと思います。また、文化会館を持ってきてよいと思います。かぼちゃに合わせて、ハロウィンの全国大会をやってもよいでしょう。バカバカしいことを楽しく継続する。これが一番だと思います。

#### ○事務局（益子課長）

道の駅についてお話しをいただきましたが、昔は道の駅というと赤字の経営状況のところがあったかもしれませんが、しかし、現在、事務局で県内の道の駅を調査しているところですが、実際には、市から指定管理料がない形で自主的な売上の中で黒字経営ができている道の駅がほとんどといった状況であることを補足させていただきます。

#### ○平野委員

那珂市にインターチェンジがあるのは大きな魅力だと思います。

どこをみてもインターチェンジがあるところで大きなもの、例えば大型商業施設にせよ何にせよ、あそこにあるからここで降りてみようという思いになります。特に主婦はそういった気持ちになります。インターチェンジ周辺にイオンがあればそこに降りてみようと考えます。そうやって人が流れます。那珂市に来てみようという目玉になるものが必要だと思います。

インターチェンジを降りてすぐに行けるというところではよいのかなと思います。

せっかく、インターチェンジ周辺という好立地条件、強みがあるのだから、これを最大限に活かさない手はないと思います。

#### ○國井委員

弊社は比較的、那珂インターチェンジの近傍地にあるため、コロナ禍であっても県外から常磐道

を利用して那珂インターチェンジを降りて立ち寄るお客様が多い状況です。弊社を目的地として来られるお客様もいる一方で、大子方面や大洗方面に行くお客様からよく行き方を尋ねられます。

那珂インターチェンジを利用して、いろいろな方面に行くお客様が多い印象を持っています。そのため、那珂インターチェンジ周辺に道の駅をはじめ商業施設があってもよいと思います。

那珂市の特産物を使ったとがったものをやるというのはすごくあると思います。

ただし、その中で何ができるのかというのをしっかり決めた方がよいのかなとも思います。

ターゲットが大事なので、県外から来るお客様にわざわざ寄ってもらうのか、通過してもらうだけでよいのか、そこのコンセプトをしっかりと設定した方がよいのではないのでしょうか。

#### ○檜山委員

那珂インターチェンジが開通して30年が経過しましたが、インターチェンジを降りても何も無いのが現状です。やはり、インターチェンジ周辺に人が集まる集客施設があった方がよいと思います。道の駅の話をする、この周辺では、道の駅かつらや常陸大宮市、常陸太田市に道の駅があります。

個人的に道の駅かつらに頻繁に行きますが、道の駅かつらは規模的にかなり小さいですが、内容は充実しているようで、かなり賑わっている状況です。

あの辺は他にスーパーや大きな商業施設がないことから、地元の方の利用も多いと思います。

しかし、那珂市の芳野地区の場合、スーパー等が近くにあることから、なかなか道の駅かつらのような日常生活における近隣住民の利用というのは見込めないのかもしれないかもしれません。しかし、那珂インターチェンジ周辺に何かあればという風に考えてはいます。

また、県民の森、県植物園のリニューアル予定があるということですが、今現在、コロナ禍にある中でかなり多くの方が県民の森、県植物園に来られています。

施設として特に何かがあるわけではないですが、熱帯植物やウォーキングをしたり、あるいは子供が芝生で遊んでいる状況です。

県民の森や県植物園を活用できたらよいと考えています。個人的には、この那珂インターチェンジ周辺のまちづくりが実現できたらよいと考えています。

#### ○川島委員長

仮に道の駅ではなく、芝生広場を整備したとしても、それだけでは収支的には赤字かもしれませんが、那珂市のイメージアップに繋がることは間違いないかと思っています。

収支だけではなくて、幅広い影響も考えて検討していく必要があると考えています。

なお、今までの議論の内容をふまえると4点にまとめられると思います。

まず1点目は、道の駅ありきではなく幅広い選択肢を考えていく必要があるという点。

2点目は、仮に道の駅を整備するにしても、道の駅の意味合いについては様々あるので、慎重な議論が必要になる。3点目は、他の施設との関連や、あるいは那珂市の看板としての意味合いを考えると、小手先のことで済まないと思います。予算もそれなりに掛かる可能性はある。そこは強い政治的な判断が求められる。我々も責任感を持って取り組む必要があります。4点目は何らかの形でアンケートは必要だろうということです。

#### ○石崎委員

市内に点在する直売所を集約した施設を那珂インターチェンジ周辺に整備してはどうでしょうか。

#### ○川島委員長

生産者の近くにあって農産物を持っていきやすいというのが直売所のメリットのような気もしますが、仮に道の駅に市内の直売所の機能を集約するとなると、生産者の立場からすれば、持っていくのが面倒になるような気もしますがその辺りはどうでしょうか。

#### ○石崎委員

生産者同士の競争力が上がってよいと思います。

#### ○大森企画部長

先程、委員長にまとめていただいた4点目のアンケートについて皆様にお願いがございます。広報なか11月号に掲載しておりますアンケートについては、那珂市としても初めて実践する手法のアンケートになります。そのため、どの程度の反響があるのか想像できません。つきましては、那珂市にお住いの委員の皆様、または皆様のお仲間に積極的に回答いただきたいと思っておりますので、ご協力のほどお願いいたします。

#### ○川島委員長

WEBアンケートについては、実施時期が12月と迫っております。また、広報なか11月号のアンケートについても、もうすでに各世帯に配布しておりますので、早急に検討を積み重ねなければなりません。アンケートの手法について、何かご意見があればいただきたいのですが。

#### ○海野委員

広報なか11月号の市民アンケートについて、私は鷲内地区で班長をしていますが、私の担当する地区には40件程度の家があります。しかし、そのうち班に加入しているのは11件程度です。広報なかについては班長から、班に入っている世帯1件、1件配布するものです。班に加入していない方は市内の銀行、スーパーに置いてある広報誌を自分の意思で手に取って見るほかない状況です。そのような中で、那珂市民からの意見を幅広く聴取できるのか疑問に感じます。時に若い人は、班に加入していない方が大多数です。このことから幅広い年代の方から意見を聴取できるのか疑問に感じています。

#### ○川島委員長

広報なかを通じて実施するアンケートについて、広報なかは各世帯に1部ずつ配布ですので、一般的に回答者が世帯主とされている中高年の男性に偏る傾向があるかと思えます。このことから、アンケートによって若者の意見を吸い上げることができないだろうと懸念しています。ついでに、市の将来を担う若い方からの意見を聴取するためにも、例えば市内の小学校や中学校にアンケート票を配布するという方法もあり得ると思えます。

#### ○事務局（益子課長）

委員ご指摘のとおり、広報なかの場合、自治会に加入していない世帯には配布されないというところはあるとは思いますが、事務局においては、広報なかのアンケートと首都圏在住の方を対象としたWEBアンケートのほか、いい那珂ぐらし応援団という組織がありまして、その方は市内の方だけではないですが、登録されている方は若い方が多いので、応援団の登録者を対象としたアンケートを実施できるのではないかと考えているので、できるだけ幅広く意見を聴けるように工夫したいと思えます。

#### ○浅川委員

WEBアンケートについて、県民の森、県植物園リニューアルの予定とか見出しに記載した方が、回答者が今回のアンケートの趣旨について分かると思えます。

#### ○事務局（益子課長）

WEBアンケートについては、委員が仰ったような県民の森、県植物園リニューアルといった経緯や、調査の趣旨に関する文章等を別に記載します。

#### ○渡辺委員

アンケートについてですが、那珂市以外の県内市町村の住民に対しては実施しないのでしょうか。つくば市周辺の住民で那珂インターチェンジを認知している方は異様に多いと感じており、これは、那珂インターチェンジを起点に観光、ゴルフに行く方が多いためだと考えております。一番ターゲットしなければならないのは、県内の常磐道で繋がる、常磐道沿線の市町村に住む方々だと思います。鹿嶋市や我孫子市からもゴルフのために県北地域を訪れる方が多い状況です。もし可能であれば、県南地区及び県西地区を対象にアンケート調査を実施してもよいと思

ます。

また、農振農用地区域の実際の面積を教えてくださいませんか。インターチェンジから国道 118 号までの区間の農振農用地の面積でも結構ですので教えてくださいませんか。これは後での対応でも結構です。

○事務局（益子課長）

面積については、手元にデータがないため、この場でお答えできないのですが、資料 3-3 の農用地区域図の緑色に着色されたところが農用地区域になります。

○渡辺委員

開発に付随して民間活力の導入を見込んでいくのであれば、この周辺地域にどの程度農用地区域が分布しているのか教えてくださいませんか。

○川島委員長

農振農用地区域以外の農地の扱いは何でしょうか。

○事務局（岡本総括）

参考資料の候補地 1、2、3 については、大半が農用地区域内の農地に該当します。農用地区域内の農地は一団の農地という扱いになります。一団の農地として農業を振興する区域として指定されているのが、農用地区域になります。これが資料 3-3 で緑色に塗られている部分になります。一団の農地というのは 10ha 程度のものを指しますので、道路で分断されるなどの要因により、10ha に満たない農地が資料 3-3 の緑色に塗られていない農地になります。

○入江委員

まだ那珂市に来て 8 か月しか経過していませんが、那珂市には魅力あるもの、例えば冬の白鳥飛来や車からみえる景色など魅力的なものが多いと感じています。

一方で市民からは那珂市には何もないから近隣の海浜公園に行ってしまうという意見をよく聞きます。そのため、那珂市民が那珂市のどこに魅力を感じるのかをアンケートなどで調査できたらよいと考えています。

また、那珂市民でも知らない方が多いことから、那珂インターチェンジのまちづくりの検討状況や県民の森、県植物園のリニューアル計画等の情報について、もっと市民に発信すべきだと思います。

アンケートについては、紙ベースのものだけでなく、WEBアンケートを実施してもよいと感じます。私自身も LINE や Instagram 等の SNS を活用して集客をしているので、そういったものを活用したアンケート調査というものも有効だと思います。

○鈴木委員

基本的に皆様の意見と同様で、市民の方が集まって何かできる施設を整備していただけたら、市民が集まり、そしてそれを見て他県の方や周辺の方が集まるような施設を整備したら良いと思います。

○綿引委員

那珂市には大きな観光資源はありませんが、小さい規模のものであれば魅力的なスポットは市内にあると思いますので、大きな施設もあって、小さい規模の魅力的なスポットも周りにあるというのが理想的だと思います。そのため、やはり大きな施設はあった方がよいと思います。

農産物を販売する側の観点からすると、人さえ集まれば何でもできるというのは実感しているところですので、道の駅にこだわらず広く考えても良いと思います。

○浅川副委員長

周囲の方から、道の駅の候補地について、もう既に具体的な場所が決まってしまうのではないかと聞かれました。そういったことが先に外部に出てきていることから、那珂インターチェ

ンジ周辺に道の駅が整備されると思われてしまうと思います。そこは誤解のないようにしてほしいと思います。

○事務局（益子課長）

この参考資料については、今年9月の議会に「道の駅構想」について報告させていただいた際の資料を参考として付けさせていただいたものになります。あくまで参考資料として用意したものですので、この資料にあるように候補地を3つに絞っているということではありませんので、よろしく願いいたします。

○川島委員長

ほかにご意見等はございませんか。

それでは、ただ今いただきましたご意見等を踏まえつつ、さらに、第2回・第3回の委員会で「まちづくりの方向性」などの検討を進めてまいりますので、よろしく願いいたします。

それでは、協議事項はすべて終了しましたので、事務局に進行をお返しします。

○事務局（益子課長）

川島委員長、ありがとうございます。

それでは、「6のその他」でございます。

○事務局（益子課長）

次回、第2回の検討委員会は、令和3年1月に開催を予定しております。

先ほど、川島委員長からありましたが、今回は、本日説明しました、那珂インターチェンジ周辺の現状や、開発、土地利用上の課題なども踏まえつつ、今回はアンケート結果もご提示できると思いますので、それらを踏まえつつ、「まちづくりの方向性」などを検討していただく予定でございます。日程等の詳細が決まりましたら、改めてご連絡いたしますので、よろしく願いいたします。

○事務局（益子課長）

それでは、長時間にわたり、慎重なご審議をありがとうございました。

以上をもちまして、第1回那珂市那珂インターチェンジ周辺を核とした活力あふれるまちづくり検討委員会を終了いたします。

本日は、お疲れ様でした。

以上